

令和7年
11月1日
第83号発行
内外政治
研究 G
代表 宮田修一

高市内閣始動

10代20代の支持率は8割超えも

高市早苗氏が自民党総裁に選ばれた10月4日、国会議員や支持者らの「万歳」の声で埋め尽くされた国会近くの高市陣営の決起会場のスクリーンには「爆誕」という文字が映し出されました。「世間を驚かせ、激しい衝撃を伴って誕生する」という意味のインターネットスラングです。新総裁誕生にふさわしい表現でした。そして、高市総理が誕生すると、今度

24日の国会での「所信表明演説」に続いてトランプ米大統領との日米首脳会談、そしてAPEC首脳会議が開かれた韓国での日韓首脳会議、習近平主席との日中首脳会議――。何と慌ただしく、そして人々を惹きつけた10日間だったことでしょう。

「朝日」では30代の支持率が86%

高市内閣の支持率がメディアの緊急世論調査で軒並み65%〜75%を記録しています。中でも選挙権を持つ10代と20代の若者の支持率は、8割前後に達しています。「朝日」の調査では全体で68%、18歳〜29歳だと75%、30歳代に限れば86%でした。「読売・日テ

レ」の支持率は71%で、18歳〜39歳では80%でした。「産経・フジテレビ」の調査は75.4%で、18歳〜29歳だと89.1%という驚異的な数字になりました。このほか、「日経・テレ東」74%、「毎日」65%、「共同通信」64.4%でした。

高市早苗首相の18閣僚への指示書全文



全閣僚に推進すべき政策を「指示」

これまで、国民の中に鬱々として溜まっていた不安や不満が、いっきに高市内閣への「支持」となって表われたということでしょう。高市内閣の支持理由に「政策に期待できる」と答えた人が最も多いのも各メディアともほぼ共通しています。高市首相は組閣と同時に、全閣僚に対し、それぞれが推し進めるべき政策を文書で指示しました。これまで練りに練ってきた政策を、逆転敗退した昨秋の総裁選以降に時間をかけてバージョンアップし、満を持して閣僚に提示したとみられます。

指示書には。全閣僚に共通の指示もあり、「日本の未来を切り拓く責任を果たすべく、絶対にあきらめない決意をもって、国家国民のため、内閣の総力を挙げて、以下の政策を推し進める」とし、①「強い経済の実現」②「地方を伸ばし暮らしを守る」③「外交力と防衛力の強化」の3点について、具体的な政策を掲げています。

空母の艦上で中国に見せつけた日米の堅い結束

10月28日のトランプ大統領との首脳会談は、一週間前に日本政治のリーダーとなった高市早苗首相の鮮烈な外交デビューとなりました。

とりわけ、米軍横須賀基地に停泊する原子力空母「ジョージ・ワシントン」艦上での両首脳の間には、親密ぶりは、日米の強固な結束を内外に示す絶好の機会となりました。

同時に、全世界に配信されたであろう2人の影像是、中国の習近平主席に対して、決して軍事的威圧には屈しないという我が国の覚悟と米国の意思を見せつけたとも言えます。



迎賓館での会談で握手する両首脳（首相官邸HPより）

軍人らを前に「力強さ」と「茶目っ気」と

朝日など左派メディアの一部は、高市政権に対する国民の圧倒的な支持に気圧（けお）されつつも、高市首相を指して、「はしゃぎ過ぎ」「トランプへの迎合」と批判します。

上機嫌なトランプ大統領の脇で、ガチガチになつて、ぶつきらばうに振る舞うことこそ異常です。力強さだけでなく、「茶目っ気」があるのが、「ガラスの天井」を打ち破って宰相になった高市首相の持ち味なのです。あの毎日新聞でさえ、「恥ずかしがる日本人では普通できないロックスターのような振る舞いだった」というベテラン外交官の好意的な声を紹介しています。

そんな高市首相と好対称だったのがAPEC首脳会議に出席した昨秋の石破茂首相でした。近寄って手を差し出す外国首脳と座ったまま握手する姿に幻滅した人も少なくなかったはず。（宮田修一）